

令和4年度 学校評価について

10月と2月の学校運営協議会にて、学校評価をしていただいております。学校の経営方針、実際の取り組み(確かな学力のつく学校、秩序のある学校、学校・家庭・地域の連携・協働)の成果と課題から、様々なご意見をいただきました。その詳細については、本校ホームページにも掲載しますので、ご覧ください。

【学校運営協議会メンバー】 ※敬称略

学校評議員：山口久幸(会長)、栗原愛子、木村千佳、高山和久 PTA会長：江田健二
 区長代表：北原徳己 地域づくり協議会会長：栗原昭典
 学校：古川志乃(校長)、古村里香(教頭)、牛島健太郎・原島裕美(主幹教諭)

【学校目標】

ふるさと矢部を愛し、未来を拓く学力と健康な体を持ち、共に伸びる児童・生徒の育成
 ～学校地域家庭をつなぐ「総がかりの教育」の推進～

【本年度の重点目標】

自分の思いや考えを仲間とつなぎ、広げていく子どもの育成 ～つなごう・広げよう～

本年度の重点目標に関する評価

具体的方策	中間評価	最終評価
自分の考えを発表したり、話し合い(交流)により自分の考えを修正したりできる対話活動の設定をしている。	3.11	3.06
子ども達の考え等が構造化された板書の工夫や、交流が活性化するような資料の提示やICT等の活用をしている。	2.79	2.94
清流ロジックを活用した授業に取り組んでいる。	2.82	2.94
職員会議や全校児童生徒に向けた校長及び他の職員等の話を、朝の会や集会等で前期課程・後期課程の児童生徒の発達段階に応じて理解させようと努めている。	3.11	3.25
児童生徒の授業や休み時間の様子、生徒指導等について、積極的に職員間で情報共有し、児童生徒や保護者等につなぐよう努めている。	3.32	3.19
教科・領域及び学校行事等において教科横断的な指導に努めている。	2.89	2.94
地域学校協働活動と連携した生活科や総合的な学習の時間等の取組では、ねらいを明確にして特色ある教育活動に取り組むことができています。	3.12	3.38
学校便りや学級通信等や、電話連絡・家庭訪問を通して地域や家庭との連携に努めている。	3.32	3.29
児童の実態に応じて、SCやSSW等の関係機関との連携ができています。	3.44	3.38

【成果】

- ・地域との学習活動により、地域を知って、親しみや誇りを持つ子どもは増えている。
- ・教師間の連携について、子どもの情報共有はよくできており、組織的に子どもへの指導ができています。
- ・子どもの様子、他の職員の話等をつなぎ、子どもを賞賛することで自尊感情を高めている。

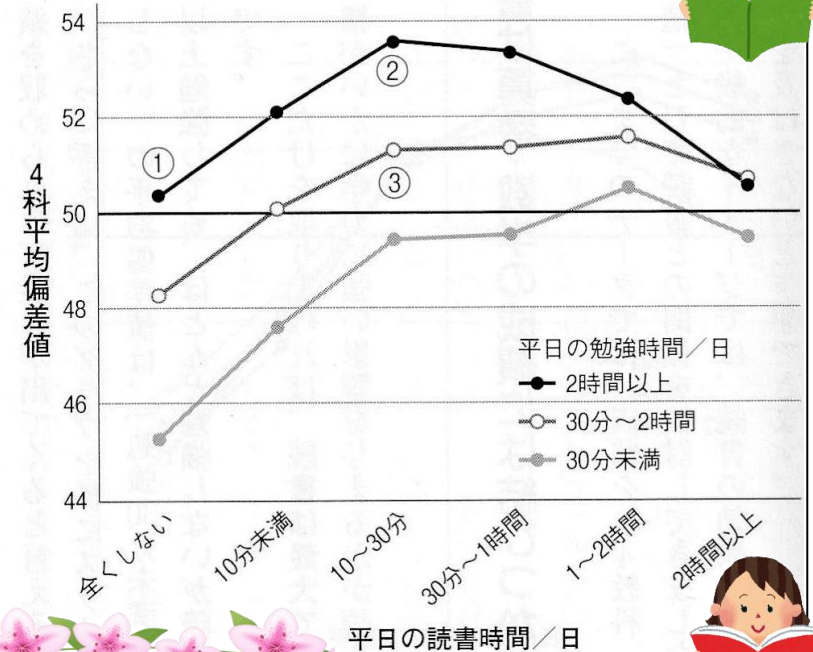
【課題】

- ・地域を知り、親しみは持っても矢部を離れる流れが止まっていない。長期展望に立った方策が必要。
- ・生徒指導面や教育活動についての諸問題において、対応策の協議時間が十分にとれていない。また、若手の人材も増え、育成が必要である。

【総合評価】

評価項目	中間総合	最終総合
①基礎学力の定着	3.0	3.3
②特別支援教育の充実	3.2	3.2
③基本的生活習慣の育成	3.2	3.2
④キャリア教育の充実	3.0	3.2
⑤危機管理計画の実施	3.1	3.3
⑥特色ある学校づくり・小中連携教育の推進	3.3	3.5

読書時間と成績の関係 (勉強時間別)



小中学生4万人の解析データが実証した「学力と読書の関係」について述べられた書籍を紹介します(川島隆太監修の著書より)。

📖のグラフ ①と②を見てください。

- ・勉強に加えて、1日たった30分の読書を取り入れるだけで、成績がアップすることがわかります。1日30分であれば、学校の休み時間や夕食を待っている間のちょっとした時間にできますよね。

📖のグラフ ①と③を見てください。

- ・勉強を2時間以上もしている子が、読書をしないことによって、それ以下しか勉強していない子より成績が悪いという結果がわかります。平日になかなか勉強時間が取れない子どもでも、読書を30分する習慣をつけることによって成績が伸びるでしょう。

本校では、朝読書の時間を設けています。このことは、一日を落ち着いた気持ちでスタートさせることにも役立っています。

読書のすすめ

著書「本の読み方」で学力は決まる 川島隆太 監修